

一一五 葬後祭並に十日祭詞

これの靈代に齋い定めて令坐奉り鎮め奉る故天理教〇〇分  
教会〇代會長△△△△大人の御靈の御前に慎み敬いて白さ  
く

あわれ汝大人はや久方の空行く月の清き明き御心に よく  
御教の蘊奥を極め 常に己がいんねんの自覚を強め おた  
すけに励み 家族親族はもとより道の子たちの上に心を注  
ぎその成人を心掛け 自らは教祖ひながたの道を見つめて  
忠実にいそしく己が務めを重しみ仕え奉りてありけるを  
果敢なくもこたび出直し坐しつるは夢に夢みる心持になむ  
今尚何処にか在すが如く思ほゆるも あ、今は矢張り呼べ  
ど答はなく見渡せど御姿はあらず 心は千々に碎けていと淋  
しき中に今は葬後の御祭に併せて十日の御祭仕え奉る時と  
はなりむ

汝大人の面影を浮べ 在せし世の事どもとりどりに語り合  
てあの日この時の功績を偲び奉り 教祖年祭を目指して  
汝大人が心にかゝる教会内容の充実を計り 併せて  
大教会移転神殿普請に精一杯の真実の伏せ込みを誓いつ、  
かくの如く拝み仕え奉る状を聞食し諾い給いて御子を始  
め道の子供達一同を彌次々と向榮に幸え恵み給えと恐み  
くも白す